

社会資本総合整備計画『三重・滋賀交流圏域における広域観光活性化計画』の事後評価

●委員

完了目標であった事業を100%完了いただき感謝する。

多賀醒井線は、山あいの道であり、これを整備していただきよかった。今年は大雪で、以前のような道であれば、道幅が狭いため事故等も増えていたのではないかと。また、歴史の舞台にもなったところでもあり、コロナ収束後には、観光バス等の往来が予測されるので、この道路の整備はとてありがたいと思う。

国道421号については、永源寺ダムが見える気持ちのいいドライブロードに整備いただきありがたい。また、この先にある道の駅は、他県ナンバーの車をたくさん見る。この道を通って滋賀県に来られる方も非常に多いと感じる。滋賀県から三重県四日市に向かう道としても時間短縮になって非常によくなった。ご苦労様でしたとお伝えしたい。

●委員

スライド13ページの「引き続き、アクセス性を向上させるため残り1.6km」というのはどこを指すのか？

○事務局

スライド13ページにダム湖の上空からとった写真があるが、このダムの東側が2.2kmの事業区間である。このうち赤色の部分が、引き続き整備が必要な1.6kmの区間になる。

●委員

国道421号の区間は以前通ったことがある。今後も通ることがあると思うので、整備されたら非常に良いと思った。

●委員

10ページの評価指数の目標値の実現状況について、定量評価ということで、定性的なものに比べてはっきりと判断ができる。今回は観光客数を設定されているが、残念ながら、最終年はコロナの影響で未達成になっている。最近はいろんな分野において、コロナの影響で未達成となり、なかなか評価が出来ないという状況になっている。これは一時的なものだと思うが、これに代わる指標や補正するような議論はしているのか？

○事務局

参考ではあるが、令和元年の滋賀県の対象地域の観光客数で2,380万人、中間年から7%増加と目標値を達成していることから、コロナの影響がなければ、最終年も目標は達成できていたと考えている。

●委員

おっしゃる通りだが、これに代わるような補正の仕方、あるいはこういった観光に対する新しい指標がないか考えたが、なかなか見当たらない。そこで、最終年である令和2年は未達成だったが、例えば、コロナが一時的なものとなれば、収束したときにこの目標値を達成しているかどうか確認するといった評価方法も検討すべきではないかと思う。

また、コロナや自然災害が起きるとマイナス要素になる。反対に、国民スポーツ大会があって観光客が急増したとなればプラス要素になる。それらを目標の指標や、あるいは補正值にするといった工夫がほしいと思う。

●委員

今回、名前が広域観光活性化計画ということで、目標値として観光客数の増加を挙げられていると思うが、道路整備というのは観光のためだけではないと思うので、今回のようにコロナで観光客数は当然減少するというのを踏まえると、道路整備によって得られる効果を、他の観点から目標に入れるというのは難しいのか？やはり、広域観光活性化計画の評価というものは、観光客しかないということなのか？例えば、交通事故件数の減少や通行車両の増加、所要時間の短縮といったものがあればいいと思ったが、それは評価の体系上、難しいのか教えてほしい。

○事務局

この定量的指標の設定にあたっては、国の方から定量的指標のガイドラインというものが示されており、広域連携事業では観光入込客数の増加ということが望ましい指標として設定されている。そういったことから、その他の時間短縮等を、定量的指標に設定するのは難しいと思うが、今後、事業の説明をさせていただく際に、所要時間の短縮や交通量増加といった違う観点からも説明させていただくよう検討していく。

●委員

国土交通省に提出されている資料を添付されているが、そこでは番号 A-11 001～A11-026 まで事業がある。また、備考欄の 57-A1-〇〇というように数字を記載されているが、21の次が24番となっており22、23番がない。このように番号が飛んでいるものは、別の計画に入っているのか、それとも別の予算を取りにいつているのか教えてほしい。

○事務局

計画策定時に、県としてはこの整備計画で40事業を進めたいと考えていたが、調整段階で26事業に減らしており、その作業値が残っている。ここから外れた事業は、違う予算を使いながらアクションプログラムに基づいて推進している。

●委員

了解した。

●委員

純粹に公共事業の評価ということ考えたとき、道路整備事業と観光客入込客数にはかなり距離がある。

国はガイドラインで観光入込客数を書いているかもしれないが、滋賀県の公共事業評価モデルの構築を、土木交通部で検討していただく必要があると思う。例えば、次の金亀公園の議題では、同じように広域的な観光入込客数のことを書いているが、同時に金亀公園自体の観光客数がどうだったのかという指標も挙げていただいている。この整備計画でも、もう少しミクロに、道路単位で見たときに、実際どのような流動があったのかといったところを調査する必要があると思った。

コロナウイルスの影響があることで、スライドの10ページにあるように、広域的に見たときには減っているが、道路単体で見たときには、現状維持や減少幅が少なく済んでいるとなると評価がしやすい。やはり公共事業の評価としてはそういうところを目指してほしいということ意見を意見として述べさせていただく。

●委員

目標に対して達成しないといけないというのは、もちろんベースとしてはあるが、今回はコロナウイルス感染症の拡大という誰もが予測しなかった事態ということもあり、この中で達成しなかったというのは、かえってコロナウイルスの封じ込めに寄与したという見方もできると思う。

この年は仕方がないかもしれないが、令和5年や6年に、これだけ観光客が増加するというような見込みでもいいので、説明に含まれているともう少し全体像が見えてくるのかと思った。

●委員長

評価をどのようにしていくのかというのは、ずっと課題となっている。今後も県として考えていただけたらと思う。

以上